



チーム名		1Q	2Q	3Q	4Q	TOTAL
	立教大学RUSHERS	7	10	7	0	24
	明治大学 GRIFFINS	6	9	0	3	18

## 1Q

明治のキックオフで試合開始。最初のディフェンスでは流れをつかみきれず、ロングパスを許してタッチダウンを奪われます。しかしその直後のオフェンス、#21高橋が約40ヤードを駆け上がり、一気にチャンスを広げます。相手の反則もありゴール前に進むと、最後は#21高橋が押し込みタッチダウン。試合はすぐに振り出しに戻ります。その後は明治ディフェンスが反則や立教の粘り強いランに押され、自陣に攻め込まれたところで第1クォーター終了。序盤から拮抗した展開となっています。

## 2Q

第2クォーター、最初の立教の攻撃はキックでしっかりと押さえ、明治が反撃の機会をうかがいます。続くオフェンスでは、#21高橋のランに加え、#15新楽から#11後藤 珠へのロングパスが決まり、着実に陣地を進めます。最後はキックを成功させ、一進一退の攻防を展開します。さらに次のシリーズでは、#15新楽のスクランブルでゴール目前まで迫り、最後は再び#21高橋が押し込みタッチダウン。ここで明治が立教を突き放します。しかし立教も簡単には引き下がりません。前半残り50秒から立て続けにロングパスを成功させ、土壇場でタッチダウンを奪取。試合は17対15、立教リードのまま前半を終えます。

## グリフィンス2戦目は、立教大学RUSHERS







## 3Q

第3クォーター、明治オフェンスはQBサックを受けるなどリズムをつかめず、思うように前進できません。

ディフェンスも64ヤードのロングパスを許し、追加得点を奪われてしまいます。

それでもオフェンス陣は粘りを見せます。#89金子の力強いランアフター、そして#21高橋の安定したランで前進し、敵陣10ヤード付近まで攻め込みます。ここで第3クォーター終了。試合は依然として緊迫した展開が続きます。



## 4Q

第4クォーター、明治オフェンスはキックで得点を重ね、立教大学に食らいつきます。流れを託されたディフェンスは、立教オフェンスにしっかりと対応し追加点を許しません。



再びボールを託された明治オフェンスは、#15新楽のスクランブルでチャンスをつくりますが、ここでもQBサックなどに阻まれ、思うように流れをつかめません。

一方のディフェンスは最後まで果敢にターンオーバーを狙い続けますが、時間切れ。試合は24対18、明治はあと一步及ばず、惜しくも敗戦となりました。







チーム名	1Q	2Q	3Q	4Q	TOTAL
 法政大学 ORANGE	0	21	0	13	34
 明治大学 GRIFFINS	7	14	7	21	49

## グリフィンス3戦目は、法政大学ORANGE。



### 1q

試合は法大の攻撃からスタート。しかし明大ディフェンスが主導権を握らせず攻守交替。自陣6ydから始まったオフェンスは、#21高橋の力強いラン、#15新楽から#89金子へのロングパスと畳み掛け、一気にゴール前へ。残り1yd、最後はキャプテン高橋周が押し込みタッチダウン！  
昨年関東王者を相手に明大が先制点を挙げる。  
しかし直後に法大の豪快なロングパスで形勢逆転を許してしまい、その流れのまま第1Qが終了する。

### 2q

開始早々窮地にあったディフェンスも粘るが、序盤にTDを許し、試合は振り出しに戻る。  
追いつかれた明大だが、QB # 15新楽とRB # 21高橋周を起点に攻撃を継続。新楽の # 1桑村へのパスも成功し相手陣地へと攻め入る。  
最後は#21高橋周が2ydを突破しタッチダウン！再び勝ち越しに成功する。しかし直後、法大がキックオフリターンTDで意地を見せ、同点に。  
それでも明大は取られたら取り返す展開。まさにその直後のプレーでまたしても # 21高橋が70ヤードを独走し、再びリードを奪う。しかし法大も譲らず、TDパスで追いつき、激しい打ち合いの前半は21-21で折り返した。





### 3Q

後半に入ると、QB #15新楽のスクランブルや#11後藤珠へのロングパスでリズムを作り、敵陣21ydまで前進。  
ここでも主役は#21高橋。相手ディフェンスの隙間を切り裂き、そのままタッチダウン。  
明大が再びリードを奪い、後半の流れを掴んだ。  
さらに相手キッキングチームのミスで#9関が見逃さずファンブルリカバーに成功。試合の流れがより明治に傾く。  
この間ディフェンス陣も法政オフェンスにしっかりとアジャストし、隙の無い守備で完璧に封じ込める。  
明治オフェンスは絶好のフィールドポジションから#37木村や#21高橋のランで攻勢に出る。

### 4Q

開始早々、残り2ydから高橋周が力で押し込みタッチダウン！リードを広げると、直後のシリーズでは#50水野がQBサック、#23齋藤がインターセプトを決め、ディフェンスも躍動する。  
さらに高橋周がこの試合6度目となる圧巻のタッチダウンを決め、スコアは一気に41-21。  
続いて#50水野がQBのミスを見逃さずインターセプト！そのまま持ち込みピックアップ。49-21と試合を決定づける。  
終盤、法大が意地の2連続TDを奪い返すも、明大は最後まで主導権を譲らず。最終スコア49-34、激戦を制して昨年関東王者に堂々の白星を飾った。







## ◆法政大戦を振り返って

法政戦にて、選手にインタビューを実施しコメントを頂きました。ご協力頂きました皆様、誠にありがとうございました

### ◆インタビュー #47 小山田 匠吾 (FB)



■法政大学と対戦した印象。  
オフェンスとしてやりたいことができました。特にランプレーでは自分たちがこだわってきたことが良い形で出せたと思います。

■法政戦の反省  
法政戦ではキッキングでの反省が多く出ました。もっと細かいところまで準備しなければならないと感じた試合でした。

■次戦への意気込み。  
とにかく細かいところまでこだわって、早稲田戦でも自分達のアメフトをやりきりたいと思います。

### ◆インタビュー #23 斎藤 翼 (DB)



■法政大学と対戦した印象。  
昨年関東王者ということもありオフェンス、ディフェンス、キッキングの全てにおいて関東のトップレベルだなという印象

■法政戦の反省  
ロングパスやタックルミスなどDBの役割を果たすことができなかったのが反省です

■次戦への意気込み。  
まずは役割の徹底。次にビッグプレーを起こします。

### ◆インタビュー #50 水野 俊輔 (DL)



■法政大学と対戦した印象。  
去年のリーグ王者であり、個の力が強いチームの印象。

■法政戦の反省  
試合の中でシチュエーションを考えながらプレイできていないことがあった。

■次戦への意気込み。  
次戦もサックします！！！！





## ■次戦

2025年10月5日(日) 14:00 K.O. 富士通スタジアム川崎で早稲田大学との対戦です。

前年度の関東王者を撃破した波に乗り、リーグ戦3勝目を飾ることができるのか。勝利という結果以外にたくさんの課題が見つかったこの試合を活かし、トーナメント進出に重要な1戦へと臨みます。

早稲田戦の勝利にむけて、試合会場をネイビーカラーで埋め尽くしましょう！  
**GRIFFINS**を皆様の熱い応援でサポートしましょう！

**Go ! GRIFFINS.**